

科目名	看護学教育特論 I			担当教員：○金城 祥教・安酸 史子・清水かおり	
科目名(英語)	Advanced Nursing Education I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2~3	研 409 (金城祥教) 看護学科事務室(非常勤講師控室)(安酸)	月曜日・木曜日 7 限 授業の前後 30 分ずつ

#### 1. 授業の概要：

看護の教育的機能や看護教育制度の歴史的変遷を概観しながら、時代の看護に向けられた要請や実践の科学としての看護学の発展、知的集積とその伝承に関する方法について探求する。ケアリング理論に基づくカリキュラムの検討や学生参画型授業の実践的開発を通して自己教育力の育成方法について探求する。授業の形式は主として学習者の事前学習(反転授業)に基いて展開する。

#### 2. 到達目標：

1. わが国の看護教育制度の変遷について理解できる。
2. ケアリングカリキュラムの考え方が理解できる。
3. 自己教育力を育む学生参画型授業の方法論が理解できる。

#### 3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイダンス 看護の教育的機能について	(金城祥教)
第 2 週	看護教育の特徴(講義、演習、実習)とその評価法について	(金城祥教)
第 3 週	教授—学習過程(伝達と対話)の構造について	(金城祥教)
第 4 週	学生参画型授業とその教授法について—その 1	(金城祥教)
第 5 週	学生参画型授業とその教授法について—その 2	(金城祥教)
第 6 週	小集団による協働学習法について—その 1	(金城祥教)
第 7 週	小集団による協働学習法について—その 2	(金城祥教)
第 8 週	技術教育と思考力教育	(金城祥教)
第 9 週	自己教育力の育成とその評価法—その 1	(金城祥教)
第 10 週	自己教育力の育成とその評価法—その 2	(金城祥教)
第 11 週	アメリカの看護教育の改革とケアリングカリキュラム	(安酸史子)
第 12 週	ケアリングカリキュラムとは	(安酸史子)
第 13 週	ケアリングカリキュラムにもとづく看護教育	(安酸史子)
第 14 週	経験型実習教育とケアリングサイクル	(安酸史子)
第 15 週	全体の振り返りと自己評価—他者評価	(金城祥教)

#### 4. テキスト： 杉森みど里・舟島なをみ 「看護教育学 第 4 版増補版」医学書院

参考文献：①舟島なをみ 看護学教育研究—発見・創造・証明の過程 医学書院

②舟島なをみ 監訳「看護学教育における講義・演習・実習の評価」 医学書院

③E オリビアベウイス, ジーンワトソン安酸史子監訳「ケアリングカリキュラム—看護教育の新しいパラダイム」医学書院

④関田一彦 監訳「学生参加型の大学授業—協同学習への実践ガイド」玉川大学出版部

#### 5. 準備学習： 教育に関する自己の経験ポートフォリオを準備すること

#### 6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 30 点(評価視点:授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ)
- ・レポートの内容 30 点(評価視点:テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)
- ・試験 40 点(各単元の理解度, 到達目標の充足度)
- ・合計 100 点満点

#### 7. 履修の条件：特になし

#### 8. その他：

科目名	看護学教育特論 II			担当教員：○金城 祥教・清水 かおり	
科目名(英語)	Advanced Nursing Education II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	研 409 (金城) 看研 6 (清水)	月曜日・木曜日 7限 月曜日・木曜日 7限

1. 授業の概要：

学士課程における看護基礎教育で到達すべき「知識」「技能」などの看護実践能力の検討と、継続教育におけるキャリア開発をコンピテンシーモデルの視点から検討する。さらに「成人教育」技法を用いた継続教育プログラムの開発と、これらを基盤とした精神看護学及び成人看護学領域における看護学教育のモデルを講義と演習を通して検討する。授業の形式は学習者のプレゼンを中心とした反転授業にて展開する。

2. 到達目標：

1. 学士課程における看護実践能力の評価方法について理解できる
2. 基礎的な教育技法を用いた継続教育におけるプログラムの開発方法が理解できる。
3. 成人看護学・精神看護学領域における基礎教育から継続教育へのキャリア開発のプロセスが理解できる。
4. 学習者への学習支援の技法に関する理論が理解できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイダンス	(金城祥教)
第 2 週	学士課程における看護実践能力に関する文献検討	(清水かおり)
第 3 週	学士課程における自己教育力育成に関する文献検討	(金城祥教)
第 4 週	看護のキャリア開発と継続教育の考え方	(金城祥教・清水かおり)
第 5 週	看護のコンピテンシーモデルによるコーチングスキルの検討	(金城祥教)
第 6 週	成人教育技法を用いた継続教育の方法論—演習 1	(清水かおり)
第 7 週	成人教育技法を用いた継続教育の方法論—演習 2	(清水かおり)
第 8 週	コンピテンシーモデルによる継続教育の方法論—演習 3	(金城祥教)
第 9 週	コンピテンシーモデルによる継続教育の方法論—演習 4	(金城祥教)
第 10 週	精神看護領域におけるエキスパート教育の検討	(金城祥教)
第 11 週	精神看護領域における実践能力評価指標の検討	(金城祥教)
第 12 週	精神看護領域における教育技法の検討	(金城祥教)
第 13 週	高齢者・成人看護学領域における教育技法の検討	(清水かおり)
第 14 週	看護専門制度と認定看護師制度	(金城祥教)
第 15 週	全体の振り返り (自己評価—他者評価の方法について)	(金城祥教・清水かおり)

4. テキスト： ①田島桂子 看護学教育評価の基礎と実際—看護実践能力育成の充実にむけて第 2 版 医学書院  
②舟島なをみ「看護教育学研究」発見・創造・証明の過程 医学書院

参考文献： ①舟島なをみ編集「院内教育プログラムの立案・実施・評価」日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」の活用 医学書院  
②井部俊子, 中西睦子監修「看護管理学習テキスト④看護における人的資源活用論」日本看護協会出版会  
③杉森みど里 監訳 エビデンスに基づく看護学教育 医学書院

5. 準備学習：

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 30 点 (評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ)
- ・レポートの内容 30 点 (評価視点：テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)
- ・試験 40 点 (評価視点：各単元の理解度, 到達目標の充足度)
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件：看護学教育特論 I を履修済であること

8. その他：

科目名	高齢者リハビリテーション看護学特論 I			担当教員： 金城 利雄、永田美和子	
科目名(英語)	Gerontological Rehabilitation Nursing I			玉井なおみ	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	3~5	研 405 (金城利雄) 研 610 (永田美和子) 看研 5 (玉井なおみ)	月曜日 7 限 木曜日 7 限

1. 授業の概要：

摂食・嚥下障害や認知機能低下を持つ高齢障害者とその家族の QOL 向上に必要な看護介入方法について探求する。

2. 到達目標：

摂食・嚥下障害や認知機能低下を持つ高齢障害者の機能障害に関連した最新の看護実践に必要な理論・技術について理解できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	オリエンテーション	(金城利雄、永田美和子、玉井なおみ)
第 2 週	摂食・嚥下機能のメカニズム	(金城利雄)
第 3 週	摂食・嚥下機能の検査法	(金城利雄)
第 4 週	摂食・嚥下機能障害とは	(金城利雄)
第 5 週	摂食・嚥下障害の評価法	(金城利雄)
第 6 週	摂食・嚥下障害に対するリハビリテーション	(金城利雄)
第 7 週	認知症とは	(永田美和子)
第 8 週	認知症のケア 事例検討①	(永田美和子)
第 9 週	認知症のケア 事例検討②	(永田美和子)
第 10 週	認知症のケア 文献抄読①	(永田美和子)
第 11 週	認知症のケア 文献抄読②	(永田美和子)
第 12 週	がんのリハビリテーション (総論・予防的)	(玉井なおみ)
第 13 週	がんのリハビリテーション (回復的・文献抄読)	(玉井なおみ)
第 14 週	がんのリハビリテーション (維持的・文献抄読)	(玉井なおみ)
第 15 週	がんのリハビリテーション (緩和的・まとめ)	(玉井なおみ)

4. テキスト：

参考文献：授業の中で、適宜紹介する。

5. 準備学習：

授業は、主体的に学習する姿勢・態度が求められる。プレゼンテーションは、事前に課題を探求し、理解した内容を他者に伝わるように工夫して資料を作成し、発表すること。討議では、プレゼンテーションの内容を踏まえ、内容の理解を深めるとともに、建設的な意見を発表し、積極的に討議すること。

6. 成績評価の方法：

- ・プレゼンテーション 50 点 (評価視点：事前学習・資料作成の努力, 問題発見・解決の努力, 発表の適切さ, 討議への参画度)
- ・レポートの内容 30 点 (評価視点：テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)
- ・試験 20 点 (評価視点：各単元の理解度, 到達目標の充足度)
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件： 特になし

8. その他：

科目名	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅱ			担当教員：金城 利雄	
科目名(英語)	Gerontological Rehabilitation Nursing II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	1~2	研 405	月曜日・木曜日 7限 火曜日・金曜日 7限

1. 授業の概要：

様々な場で生活する高齢者のセルフケア能力や QOL を維持・向上する上で必要な高度な看護実践能力を養う。特に、摂食・嚥下機能障害や排泄機能障害の機能回復に対する看護実践方法の開発について、講義と演習を通して探求する。

2. 到達目標：

生活機能の低下した高齢者の生活適応に向けたセルフケア能力の回復や QOL を維持・向上を支援する看護方法の開発に必要な知識・技術について理解できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	生活機能障害評価の意義	(金城利雄)
第 2 週	日常生活活動評価の種類と方法	(金城利雄)
第 3 週	運動機能障害評価と支援方法	(金城利雄)
第 4 週	運動機能障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)
第 5 週	高次脳機能障害評価と支援方法	(金城利雄)
第 6 週	摂食嚥下障害評価と支援方法①	(金城利雄)
第 7 週	摂食嚥下障害評価と支援方法②	(金城利雄)
第 8 週	摂食嚥下障害評価と支援方法③	(金城利雄)
第 9 週	排尿障害の疫学	(金城利雄)
第 10 週	排尿障害のメカニズム	(金城利雄)
第 11 週	排尿障害の病態	(金城利雄)
第 12 週	排尿障害の検査・機能評価	(金城利雄)
第 13 週	排尿障害の治療	(金城利雄)
第 14 週	排尿障害の予防	(金城利雄)
第 15 週	排尿障害のケア	(金城利雄)

4. テキスト：

参考文献： 授業の中で、適宜紹介する。

5. 準備学習：

授業は、主体的に学習する姿勢・態度が求められる。プレゼンテーションは、事前に課題を探求し、理解した内容を他者に伝わるように工夫して資料を作成し、発表すること。討議では、プレゼンテーションの内容を踏まえ、内容の理解を深めるとともに、建設的な意見を発表し、積極的に討議すること。

6. 成績評価の方法：

- ・プレゼンテーション 50 点 (評価視点：事前学習・資料作成の努力、問題発見・解決の努力、発表の適切さ、討議への参画度)
- ・レポートの内容 30 点 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ)
- ・試験 20 点 (評価視点：各単元の理解度、到達目標の充足度)
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件：

特になし

8. その他：

科目番号	科目名	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅱ		担当教員：永田美和子	
	科目名(英語)	Gerontological Rehabilitation Nursing			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2～3	610	月 3.4 限

1. 授業の概要：

加齢や障害により生活機能の低下した高齢者の生活適応に向けたセルフケア能力の回復やQOLを維持・向上を支援する看護方法の開発に必要な知識・技術を探求する。

2. 到達目標：

生活機能の低下した高齢者の生活適応に向けたセルフケア能力の回復やQOLを維持・向上を支援する看護方法の開発に必要な知識・技術について理解できる。

3. 授業の計画と内容

第1週 ガイダンス

第2週 国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷：

日本の高齢化社会に至る歴史の変遷と保健医療福祉制度・政策の変遷・現状  
家族のサポートシステム

第3週 国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策の変遷：

諸外国の高齢者保健医療福祉制度との比較

第4週 高齢者の支援（1）

第5週 高齢者の支援（2）

第6週 高齢者の支援（3）

第7週 認知症の方の支援：認知症高齢者を取り巻く状況 若年認知症者を取り巻く状況

第8週 認知機能障害に伴う生活機能障害と支援方法（1）：パーソンセンタードケア

第9週 認知機能障害に伴う生活機能障害と支援方法（2）：ユマニチュード

第10週 認知機能障害に伴う生活機能障害と支援方法（3）：タクティールケア

第11週 高齢者の認知・心理機能評価（演習）

第12週 高齢者の認知・心理機能評価（演習）

第13週 高齢者の認知・心理機能評価（演習）

第14週 沖縄県北部の健康課題について 文化を基盤とした生活支援方法

第15週 まとめ

4. テキスト：

サブテキスト「パーソンセンタードケア」

5. 準備学習：担当者は事前に資料を作成して配布すること。

6. 成績評価の方法：

・プレゼンテーション	50点
・レポートの内容	50点
・合計	100点満点

7. 履修の条件：

なし

8. その他：

ディスカッション形式ですすめる。

科目名	母性看護学特論 I			担当教員：小西清美、島田友子、金城壽子	
科目名(英語)	Advanced Maternal and Family Nursing I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2~3	看研7	木曜日6限目・金曜日7限

### 1. 授業の概要：

女性や母性の特徴と時代的变化を理解し、母子およびその家族に対し、根拠に基づいた看護実践法を探究する。さらに、産科医療問題の背景を理解し、また周産期や女性の健康問題や課題を解決するための看護実践法、理論、研究方法を探究する。

### 2. 到達目標：

- ①女性や母性に生じているさまざまな健康問題・課題に対して、倫理的配慮に基づいた看護実践法を探究する。
- ②周産期や女性の健康問題・課題を解決するための看護実践法、理論、研究方法が理解できる。
- ③女性、母性の問題を看護の視点からどのように研究テーマとして取り上げ解決策を探るためにどのような研究をしているか文献（研究論文、和文・英文抄読）を通し習得することができる。

### 3. 授業の計画と内容

- 第1週 母性看護学特論I ガイダンス（主旨と進め方）（小西）
- 第2週 女性・母性の特徴と時代的变化（小西）
- 第3週 母性看護と助産実践に伴う倫理（ICM助産師の倫理綱領）（小西）
- 第4週 親養育者・妊産褥婦・女性への健康支援（島田）
- 第5週 日本とタイ国における後期妊婦・褥婦の健康支援の比較（金城）
- 第6週 産科医療の問題、助産実践能力習熟段階について（小西）
- 第7週 周産期ケアとその根拠（WHO）
- 第8週 周産期ケアとその根拠（WHO）
- 第9週 周産期ケアとその根拠（WHO）
- 第10週 周産期ケアとその根拠（WHO）
- 第11週 女性の健康問題と看護に関する文献検討（日本文）
- 第12週 女性の健康問題と看護に関する文献検討（英文）
- 第13週 周産期女性の健康問題と看護に関する文献検討（日本文）
- 第14週 周産期女性の健康問題と看護に関する文献検討（英文）
- 第15週 母性看護学特論Iの総括

### 4. テキスト：

参考文献： 各種母子関係学会誌 助産学会誌、母性衛生、小児保健、日本新生児学会誌、日本小児看護学会誌等  
「産む力をはぐくむ助産ケア」メディカ出版

### 5. 準備学習：

授業は、講義、課題図書の見直し、文献検討と質疑・討論を組み合わせで行う。課題図書、文献検討の場合は、学生が要約してから授業にのぞむ。文献検討は、学生は自分の研究課題に関連したテーマや関心のあるテーマについて選択し、そのテーマに関する関連文献を前週に他受講生に提供し読んできてもらい講義中に討論する形式をとる。そのため discussion のための文献探索とその文献の準備が必要となる。

### 6. 成績評価の方法：

- ・事前の資料準備と授業への参画度 70 点（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ）
- ・終了レポートの内容 15 点（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ）
- ・試験 15 点（評価視点：各単元の理解度、到達目標の充足度）
- ・合計 100 点満点

### 7. 履修の条件： 特になし

### 8. その他：

科目名	母性看護学特論 II			担当教員：小西 清美、島田 友子	
科目名(英語)	Advanced Maternal and Family Nursing II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2～3	看研 7(小西)	木曜日 6 限目・金曜日 7 限

#### 1. 授業の概要：

女性・母性における健康問題に関する援助法の評価方法を探求する。沖縄県で現在も行われている産育風習と助産師活動を理解し、沖縄県北部地域の母性の健康課題を解決できる看護実践法の開発と看護の専門性を探求する。

#### 2. 到達目標：

- ① 女性・母性における健康問題に関する援助法の評価方法が理解できる。
- ② 様々な看護研究をとおして自分自身の看護研究テーマの問題解決の糸口を見出すことができる。
- ③ 論理的に研究仮説を立て、それを立証する方法の一端を学習する。
- ④ 看護の専門性を理解し、看護実践法を継続して探求し高度実践能力を養う。

#### 3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 沖縄県の助産師とその周辺の活動
- 第 2 週 沖縄県で現在も行われている産育風習と助産師としての援助
- 第 3 週 女性ホルモンの変動と自律神経活動の評価
- 第 4 週 分娩後女性の心身の変化に対する援助法の評価
- 第 5 週 自然分娩法を促進する心地よい援助法の評価
- 第 6 週 褥婦の疲労と睡眠状況に関する援助法の評価
- 第 7 週 周産期ケアの現状と今後の課題の文献的検討
- 第 8 週 周産期ケアの現状と今後の課題の文献的検討
- 第 9 週 周産期ケアの現状と今後の課題の文献的検討
- 第 10 週 産後ケア施設の実際と管理 (外部講師)
- 第 11 週 離島の妊産褥婦の公的サービス支援
- 第 12 週 周産期ケアのシステム構築に関する文献検討
- 第 13 週 助産師の専門性について【演習】
- 第 14 週 助産師の専門性について【演習】
- 第 15 週 母性看護学特論 II の総括

#### 4. テキスト：特に指定なし

参考文献：各種母子関係学会誌 助産学会誌，母性衛生，女性心身医学誌等  
「助産外来の検診技術」 医学書院

#### 5. 準備学習：

授業は、講義、文献検討と質疑・討論、演習を組み合わせで行う。学生は母性看護学特論 I で選択した研究課題に関連したテーマや関心のあるテーマについてパワーポイントでプレゼンテーションしてもらいその後討論する形式をとる。そのためプレゼンテーションのための文献探索や、データ収集、日常生活・臨床場面での経験のまとめ等の準備が必要となる。

#### 6. 成績評価の方法：

- ・事前の資料準備と授業への参画度 80 点 (評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ)
- ・終了レポートの内容 20 点 (評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ)
- ・合計 100 点満点

#### 7. 履修の条件：母性看護学特論 I を履修済であること

#### 8. その他：

科目番号	科目名	小児看護学特論 I		担当教員： 金城やす子 松下聖子	
	科目名(英語)	Child and Family Health Nursing I			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2～3	看研 10	火曜日 5 限

#### 1. 授業の概要：

子どもとその家族が置かれているさまざまな状況を理解し、特に子どもの倫理的側面として、児童の権利条約の理念に基づいた健康生活について探求し、子どもの生きる権利の擁護に関する課題と方法について探求する。また、関連領域の研究のクリティックを行い、小児看護学領域の研究の動向と課題を探求する。

#### 2. 到達目標：

小児看護を実践していく上で必要な子どもと家族の健康問題について理解できる  
医療や看護の場における子どもと家族の倫理について考え、現状の課題を明確にすることができる  
小児看護学に関する動向について学ぶことができる

#### 3. 授業の計画と内容

第 1 週 (4月 17日)	小児看護学特論ガイダンス
第 2 週 ( 24日)	対象特性と小児看護の動向
第 3 週 (5月 1日)	小児看護と倫理
第 4 週 ( 8日)	児童の権利条約
第 5 週 ( 15日)	医療の場と子どもの倫理(事例検討) 1
第 6 週 ( 22日)	医療の場と子どもの倫理(事例検討) 2
第 7 週 ( 29日)	医療の場と子どもの倫理(事例検討) 3
第 8 週 (6月 5日)	臓器移植と子どもの倫理
第 9 週 ( 12日)	小児看護研究の推移
第 10 週 ( 19日)	小児看護関連の論文クリティック 1
第 11 週 (7月 3日)	小児看護関連の論文クリティック 2
第 12 週 ( 10日)	小児看護関連の論文クリティック 3
第 13 週 ( 17日)	小児看護関連の論文クリティック 4
第 14 週 ( 24日)	小児看護学を研究するとは
第 15 週 (8月 7日)	まとめ

#### 4. テキスト：

参考文献： 講義の中で提示する

#### 5. 準備学習：

グループディスカッション形式で授業を進めるため、担当者は事前に資料作成・配布すること、配布された資料について各自で検討しておくこと  
論文クリティックでは、必ず論文を事前にクリティックし、資料として配布すること

#### 6. 成績評価の方法：

- ・事前の資料準備と演習への参画度（評価視点：課題学習の準備および提出状況、事前学習の内容） 50 点
- ・終了レポートの内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、文献活用の適切性） 50 点
- ・合 計 100 点満点

#### 7. 履修の条件：

小児看護に興味がある者

#### 8. その他：

授業は、ディスカッション形式ですすめるため、事前学習が重要となる。事前学習に十分取り組むこと



科目名	精神看護学特論 I			担当教員：鈴木啓子、伊礼優、平上久美子	
科目名(英語)	Psychiatric and Mental Health Nursing I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2～3	看研 17	火曜日・金曜日 7 限

### 1. 授業の概要:

精神看護学の実践の基礎となる対象理解のための基礎理論を学ぶ。精神の機能状態の評価方法について学び、看護介入の基本として、精神状態のアセスメント技術と対人関係技術を習得する。合わせて精神的健康に関する知識およびライフサイクルにおける対象者の心理・社会的問題、危機的状況における看護アセスメントについて学ぶ。

### 2. 到達目標:

- ① Bio-Psycho-Social モデルを用いた精神保健福祉医療システムの理解ができる。
- ② 対人関係論、精神力動看護論に基づき、治療的関係の展開と自我機能・防衛機制について理解を深める。
- ③ 精神疾患の病態や生理を理解し、最新の知識をふまえた治療および看護方法について理解を深める。
- ④ ライフサイクルに沿って生じる人の精神的諸問題・危機について探求する。

### 3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 コースガイダンス・精神看護学の基盤となる諸理論
- 第 2 週 精神看護学に関連する制度や法律
- 第 3 週 精神看護学に活用できる理論・モデル総論
- 第 4 週 Bio-Psycho-Social モデル・セルフケアモデル
- 第 5 週 対人関係論・精神力動理論（自我機能と防衛機制）
- 第 6 週 精神状態とアセスメント
- 第 7 週 精神機能、家族機能、社会機能のアセスメント
- 第 8 週 精神科薬物療法
- 第 9 週 統合失調症の診断と治療
- 第 10 週 感情障害の診断と治療
- 第 11 週 適応障害・人格障害の診断と治療
- 第 12 週 災害・事故・事件後の PTSD の診断と治療
- 第 13 週 自殺をめぐる問題と支援
- 第 14 週 DV・虐待をめぐる問題と支援
- 第 15 週 精神看護特論 I のまとめ

### 4. テキスト：野末聖香編著（2004）「リエゾン精神看護—患者ケアとナース支援のために」医歯薬出版株式会社

参考文献：G.W.Start et.al.(2013) "Principles and Practice of Psychiatric Nursing" 10th edition, MOSBY.

(安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ—精神科看護—原理と実践」原著第 8 版)

5. 準備学習：各テーマに関する自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者相互によるディスカッションを行い理解を深める。毎回課題があるので、次回までに準備をすること。

### 6. 成績評価の方法：

- ・活動状況（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ）50 点
- ・レポートの内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ）50 点
- ・合計 100 点満点

### 7. 履修の条件：特になし

### 8. その他：

科目名	精神看護学特論Ⅱ			担当教員：○ 鈴木 啓子・伊礼 優 平上 久美子	
科目名(英語)	Psychiatric and Mental Health Nursing II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	看研 17(鈴木) 看研 18(伊礼)	火曜日・金曜日 7限 火曜日・金曜日 7限

### 1. 授業の概要:

現在の精神保健医療福祉の動向と社会的ニーズを踏まえ、精神的健康問題を抱える人、その家族および集団に対して、精神看護学の基礎的な諸理論や知識を用いた看護介入方法または、治療的介入方法を講義と演習を通して探究する。また、この過程において患者の人権を擁護するための倫理的判断能力を培う。

### 2. 到達目標:

- ①精神看護の実践の基盤となる看護理論を理解できる。
- ②精神的健康の維持・増進のための援助技術の活用について実際の事例をとおして検討できる。
- ③精神的健康問題を抱える人々の人権を擁護するための臨床的判断について検討し、今後の課題を考えることができる。

### 3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイダンス・精神医療福祉の動向と社会的ニーズ	(鈴木啓子)
第 2 週	精神医療福祉と自立支援	(伊礼優)
第 3 週	精神障害者とその家族の QOL	(伊礼優)
第 4 週	精神看護技術論	(鈴木啓子)
第 5 週	セルフケア理論	(鈴木啓子)
第 6 週	認知行動療法—うつ病の患者を対象とした認知療法を用いた介入方法の実技演習—	(鈴木啓子)
第 7 週	S S T ・心理教育—統合失調症の患者および家族を対象とした SST ・心理教育を用いた介入方法の実技演習—	(鈴木啓子)
第 8 週	グループダイナミクスを活用した支援	(鈴木啓子)
第 9 週	精神科における危機介入・危険防止—攻撃や暴力の事例を想定した介入方法の実技演習—	(鈴木啓子)
第 10 週	看護職のメンタルヘルス・専門看護師の活動	(山崎千鶴子)
第 11 週	精神科救急医療における看護	(平上久美子)
第 12 週	司法精神看護	(伊礼優)
第 13 週	医療チームにおける看護専門職の役割と他職種との連携	(平上久美子)
第 14 週	精神医療看護福祉における倫理的看護問題と看護師の臨床判断 —倫理的ジレンマを感じる臨床の状況に関する事例検討—	(鈴木啓子)
第 15 週	沖縄県における精神看護の課題と今後の展望	(伊礼優)

### 4. テキスト: 野末聖香編著 (2004) 「リエゾン精神看護—患者ケアとナース支援のために」 医歯薬出版株式会社 参考文献: G.W.Start et.al.(2005) ” Principles and Practice of Psychiatirc Nursing"8th edition,MOSBY.

(安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ—精神科看護—原理と実践」原著第 8 版)

### 5. 準備学習: 毎回、課題を課すので準備してくること。

### 6. 成績評価の方法:

- ・活動状況 (評価視点: 授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ) 50 点
- ・レポートの内容 (評価視点: テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ) 50 点
- ・合 計 100 点満点

### 7. 履修の条件: 精神看護学特論 I を履修していること。

### 8. その他: 精神医療看護福祉の問題について臨床や地域からの先進的な取り組みを紹介しつつ, ゲストを交えて討議する。